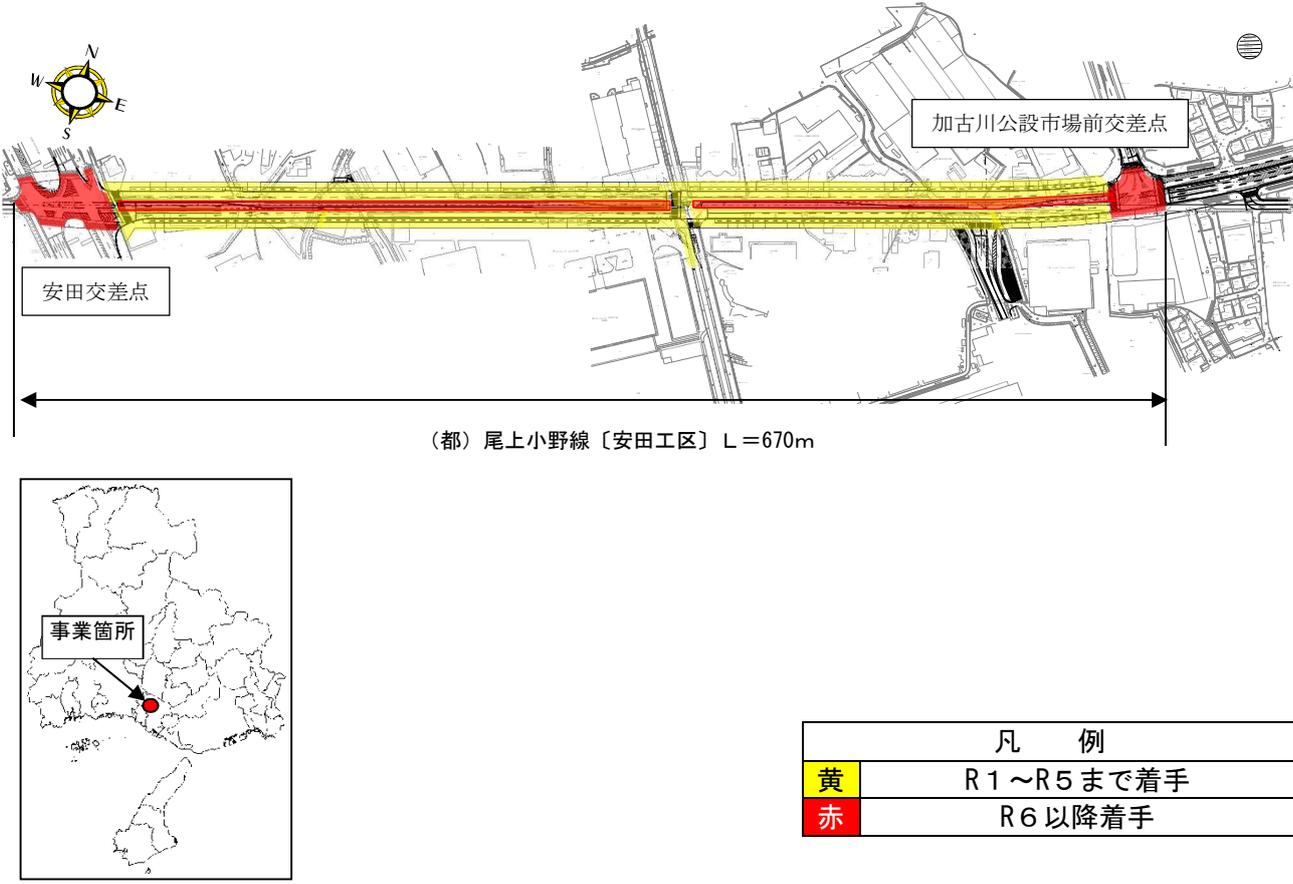


令和5年度 投資事業評価調書（継続：再評価〔第1回〕）

部課室名	土木部道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 志茂 大輔 (街路班長 山内 有紀)	内線	4362 (4474)
事業種目	街路事業	評価年度等		現計画	
事業名	都市計画道路 おのえ 尾上小野線 (安田工区)	新規評価年度		総事業費	35億円
		平成25(2013)年度		内地地補償費	20億円
事業区間	おのえ 加古川市尾上町安田 ～野口町良野	事業採択年度		進捗率	91%
		平成26(2014)年度		用補進捗率	100%
		着工年度		残事業費	3億円
		平成26(2014)年度		完成予定年度	令和6(2024)年度
					令和元(2019)年度
事業の目的			事業内容 () : 新規評価時点		
<p>○交通渋滞の解消</p> <p>・加古川市は東西軸である国道250号と国道2号を結ぶ南北道路の整備が遅れており、北側の良野工区と一連の事業として、当該工区の現道の慢性的な交通渋滞を解消する。</p> <p>○広域ネットワークの強化</p> <p>・当該路線は加古川市の国道250号と小野市の国道175号を南北に結ぶ幹線道路の一部であり、加古川市臨海部と北播磨地域を結ぶ広域ネットワークを強化する。</p>			<p>【延長】670m(660m)</p> <p>【道路規格】第4種第1級</p> <p>【計画幅員】</p> <p>4車線 車道13.0m 両側歩道4.0m 両側自転車道2.5m [全幅30.0m]</p> <p>(4車線 車道13.0m 両側自歩道4.0m)</p> <p>【計画交通量】</p> <p>自動車：19,900台/日(21,700台/日)</p> <p>【現況交通量】</p> <p>自動車：16,841台/日 [R3センサス] (17,396台/日) [H22センサス]</p> <p>【負担割合】国55%、県22.5%、市22.5%</p>		
事業を取り巻く 社会経済情勢等の 変化	<p>・平成28年7月に「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」が改定された。</p> <p>・道路法第37条の改正により、緊急輸送道路の電柱の新設が禁止となった。</p> <p>【新規評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】</p> <p>①道路法第37条の改正により緊急輸送道路への電柱の新設が禁止となり、電線共同溝を整備する必要が生じたため、全体事業費を約6億円増額し、事業期間を2年延伸する。</p> <p>②現道地盤のスラグ撤去に加え、買収地の地中から発見されたコンクリート構造物の撤去・処分を追加したため、約2億円増額する。</p> <p>③労務単価及び物価の上昇を受けた賃金、工事費等の変動に対処し、約2億円増額する。</p> <p>④用地交渉の難航により、事業期間を3年延伸する。物件調査を行い、用地補償費の精査を行った結果約5億円減額する。</p> <p>⑤自転車ガイドラインの改定(平成28年)等、“自転車は原則車道”の徹底を受け、道路幅員の再配分を行い、自転車歩行者道から歩道と自転車道に変更する。</p>				
進捗状況	<p>①令和3年度に用地買収が完了した。</p> <p>②道路改良工事、電線共同溝の整備を推進し、令和6年度完了の予定である。</p>				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見及び対応方針 (H25年度新規評価)	【審査会意見】 新規着手妥当	【対応方針】 —			
(1)必要性	<p>①現況交通量(約17,000台/日)が交通容量を超えていることに加え、北側の良野工区が平成25年度末より供用されており、慢性的な渋滞解消のために当該区間の早期4車線化が必要。</p> <p>②広域災害時には、耐震岸壁を有する東播磨港と三木総合防災公園(広域防災拠点)を結ぶ主要な緊急輸送道路としての機能を発揮する。</p>				
(2)有効性・効率性 (執行環境状況)	<p>①費用便益比B/C=2.6(全体)(前回B/C=2.9)、B/C=24.9(残事業)</p> <p>②整備が進む東播磨道とつながることで、加古川市臨海部から県立加古川医療センター(三次救急医療機関・災害拠点病院)へのアクセス性が改善され、地域の医療環境が向上する。</p>				
(3)環境適合性	<p>①無電柱化により、防災機能とともに都市景観の向上を図る。</p> <p>②歩道を透水性舗装とし、地下水涵養を図る。</p>				
(4)優先性	<p>①当該路線は東西主要幹線である国道250号まで接続されて初めて事業効果を発揮するため、良野工区に引き続き、当該区間についても早期に供用を図る必要がある。</p>				
再評価の結果	継続	左の理由	事業の必要性は、事業採択時と変わっておらず、国道250号と国道175号を南北に結ぶ幹線道路の一部であることから、継続して事業を実施する必要がある。		

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第1回〕）

事業名	街路事業	路線・河川名	都市計画道路 尾上小野線（安田工区）						
 <p style="text-align: center;">(都) 尾上小野線〔安田工区〕 L=670m</p> <table border="1" data-bbox="965 1052 1460 1176" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">凡 例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="background-color: yellow;">黄</td> <td>R1～R5まで着手</td> </tr> <tr> <td style="background-color: red;">赤</td> <td>R6以降着手</td> </tr> </tbody> </table>				凡 例		黄	R1～R5まで着手	赤	R6以降着手
凡 例									
黄	R1～R5まで着手								
赤	R6以降着手								
<p style="text-align: center;">全体 H26(2014) ～ R6(2024)</p>	<p style="text-align: center;">事業進捗状況・予定</p> <p>【総事業費＝35億円】 延長：670m 用地補償件数：49件、12,122㎡</p>	<p style="text-align: center;">整備効果</p>							
<p>事業採択から 再評価まで (実績) H26(2014) ～ R5(2023)</p>	<p>【事業費＝32億円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業進捗率：91%、用地進捗率：100% ・道路改良工事、電線共同溝の整備等を推進 	<p style="text-align: center;">—</p>							
<p>今後1年間 (予定) R6(2024)</p>	<p>【事業費＝3億円】 令和6年度供用に向けて、事業を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①慢性的な交通渋滞の解消 および円滑な交通の確保 ②緊急輸送道路としての都市 防災機能の強化 							

街路事業 都市計画道路 尾上小野線〔安田工区〕

位置図



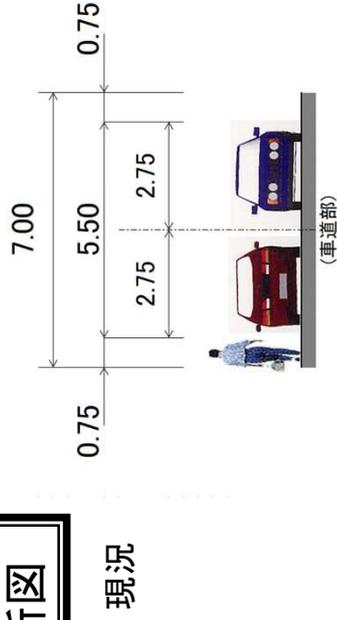
目的

- ① 4車線化による渋滞解消および円滑な交通の確保
- ② 臨海部と北播磨地域を結ぶ広域ネットワークの強化
- ③ 道路拡幅及び無電柱化による緊急輸送道路としての都市防災機能強化
- ④ 歩行者、自転車の安全性の確保

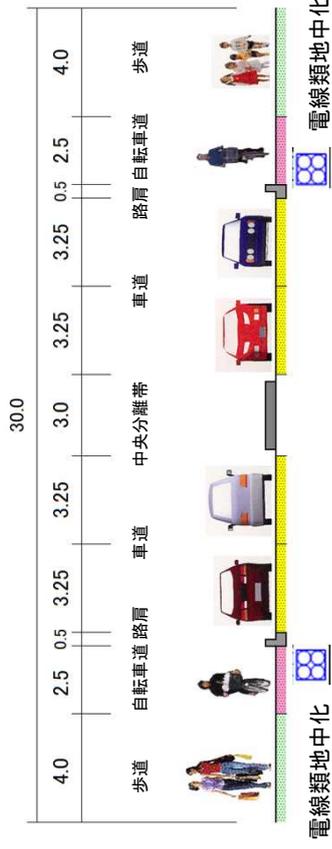
事業概要

事業区間：加古川市尾上町安田～野口町良野
 総事業費：35億円
 内用地補償費：20億円
 事業期間：H26～R6
 事業概要：現道拡幅
 延長：670m
 費用便益比B/C：2.6

横断面



計画



事業の必要性・優先性

- ① 現況交通量(約17,000台/日)が交通容量を超えており、北側に隣接する良野工区が平成25年度末より供用されているため、慢性的な交通渋滞及び円滑な交通の確保のために当該区域の早期4車線化が必要。
- ② 耐震岸壁を有する東播磨港や三木総合防災公園(広域防災拠点)を結ぶ緊急輸送道路として、広域災害時に緊急車両等が円滑に走行できる広域ネットワークの整備が必要。

平面図



出典: 国土地理院

現況写真

①狭い路肩を通行する自転車



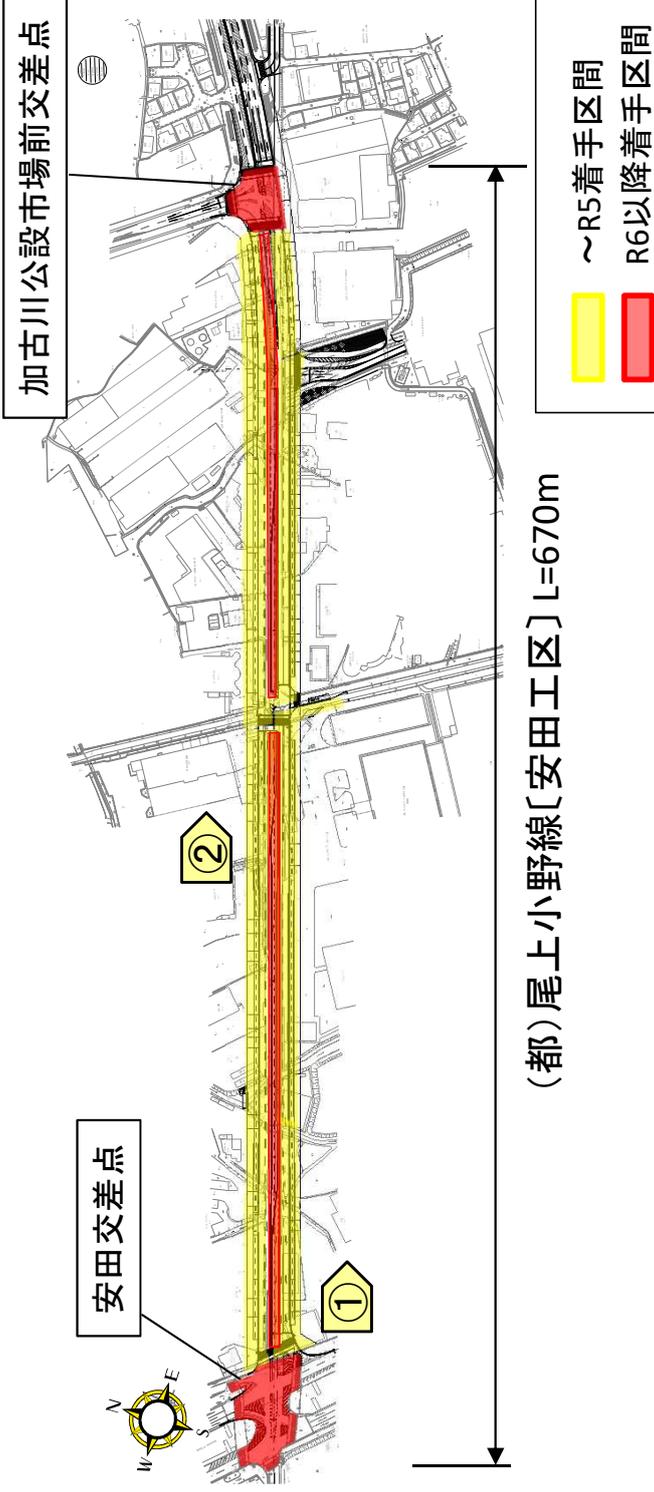
②安田交差点付近の混雑状況



進捗状況

現況写真

事業進捗平面図



工程表

工区	工種	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
安田	調査・設計		■	■									
	用地補償			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	道路改良工事			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
良野	供用	--->											

■ : 前回計画
■ : 実施・計画

①整備状況



②整備状況



事業の有効性・効率性

(1) 費用対効果

① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
① 走行時間短縮便益	目的地までにかかる時間が短くなることによる便益
② 走行経費減少便益	交通の流れがスムーズになり、燃費などが向上することによる便益
③ 交通事故減少便益	交通事故が減少することによる便益

② 費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)			C(費用)			B/C			
		便益額 (百万円)			総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)				
街路	都市計画道路 尾上小野線 (安田工区)	① 走行時間短縮便益	9,733	代表的な 効果 時間短縮 7.3分→2.4分 計画交通量 19,900～ 21,500台/日	3,984	3,886	98	2.6			
		② 走行経費減少便益	418								
		③ 交通事故減少便益	14								
		計	10,165								
		① 走行時間短縮便益	9,733	408					310	98	24.9
		② 走行経費減少便益	418								
		③ 交通事故減少便益	14								
		計	10,165								

(2)費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等
①安全・安心の確保	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 (緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路の整備)	○ 東播磨港と県立加古川医療センター(3次救急医療機関)、三木総合防災公園(広域防災拠点)を結ぶ主要な緊急輸送道路としての機能を発揮
	災害時 救助・救援活動の支援 (災害時の通行不能や孤立集落の解消)	-
②地域の活性化	減災対策への取組み (二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保)	○ 火災時の延焼遮断帯としての機能確保
	救急医療体制の支援 交通安全対策	○ 三次救急医療機関へのアクセス性を改善 ○ 歩道・自転車道の整備により安全な通行空間を確保
③円滑な交通体系の確保	地域間交流の促進	○ 臨海部と北播磨地域の連携を強化
	中心市街地の活性化	○ 市中心部の円滑な交通を確保
	地域産業の活性化 観光支援	○ 加古川市臨海部と北播磨地域の物流の強化
	地域プロジェクト等支援	-
④地域の環境改善	公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上 沿道環境の改善 景観形成	○ 東西幹線道路を結ぶ南北交通機能の強化 ○ 電線類の地中化などによる道路景観の向上 広幅員歩道の整備、植樹帯の設置により沿道環境を改善

地域からの要望状況等

要望状況等	地元より早期整備の要望がある。
-------	-----------------